

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第9号

リバイバルは奇跡ではない

日本民族総福音化運動協議会理事

池袋キリスト教会 牧師

久保有政



リバイバルと奇跡は別物

一九世紀アメリカの大リバイバルで、チャールズ・フィニーという人がいました。神様はフィニーを豊かに用いられ、彼を通して各地にリバイバル（信仰復興、信仰の高揚）の炎が燃やされました。しかしその彼が、

「リバイバルは奇跡ではない」と言っています。これは、非常に重要なことだと私は思っています。

私たちはとかく、リバイバルは奇跡のようなものと考えがちではないでしょうか。確かに、リバイバルの最中に様々な奇跡が起きることがあります。また、リバイバルに先だって奇跡が起きることもあります。

しかし、リバイバル自体は奇

跡ではない。リバイバルと奇跡は別物だと、フィニーは言うのです。そして彼は、

「リバイバルは、正しい方法を適切に用いるなら、当然起こる」と言います。聖書を開いてみましょう。

「兄弟たち。主が来られるまで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです」（ヤコブ五・七、八）

多くの人は、信仰が進み福音が拡大することは、何か特別で奇跡的な出来事だと思っています。通常の因果関係では計り知れないものだとか、人の働きとリバイバルは関係がないとか、用いる手段が結果をもたらすの

ではないとか、いうのです。

しかし、これほど教会にとつて危険な考えはありません。なぜなら、たとえば誰かが農夫のところに行つて、麦の種蒔きについて説教をして、こう言つたとしたらどうでしょうか。

「ああ、お百姓さん。収穫を得ようとして耕したり、種蒔きをするのはよくありません。収穫は神様がお与えになるんです。神様は主権者でいらつしやいますから、収穫は神様の気が向いた時だけ与えられます。人間が働くことは、神様のみわざを邪魔することです。神様の主権をおかすことです。あなたが働くのは良くありません。あなたが働いても、それは収穫には何の関係もありません」。

もし農夫がみなこの言葉を信じたら、世界中が餓死してしま

うでしょう。農夫は、自然の法則に従って土地を耕し、種を蒔き、害虫を排除したり手入れをしたりしながら、収穫を待ち望みます。そうした農夫の「働き」があるのです。

そうした働きを祝福して、神様は雨を降らし、太陽を上らせて、やがて収穫を与えてくださいます。人間側の働きと、神様の側の働きがあるのです。どちらが欠けてもいけません。

リバイバルのための働き

リバイバルも同じです。私たちは収穫をもたらすために、働く必要があります。そうした働きを祝福して、神様は秋の雨を降らし、春の雨を降らし、太陽をのぼらせて、大地の豊かな収穫をもたらしてください。

ですから、リバイバルは、私たちの働きと関係なく起こるものではありません。神様の気が向いたときだけ与えられるものでもありません。ただ待つていれれば与えられるものでもありません。

リバイバルは、農夫が働いて収穫を得ると、同じ原理に基づくのです。リバイバルは正しい方法を適切に用いて私たちが働くなら、神様からの祝福を受けて、当然、起こるべくして起きるものです。

この「秋の雨と春の雨」は、別の訳では「前の雨と後の雨」と訳されています。パレスチナには、二度の雨期があります。秋と春です。

人々は秋の雨の時に種を蒔きます。また冬を越して、春がやってくる、穀物が成長しますが、春の雨は穀物を実らせるので、そのあとに収穫をしました。ですから秋の雨は「前の雨」、春の雨は「後の雨」と呼ばれるのです。

キリスト教の二千年に及ぶ時代においても、二度の雨期があります。「前の雨」は、初代教会の時代に降った聖霊の雨です。それにより、イエス・キリストの福音の種が全世界に蒔かれ、成長し始めました。

その後、一時、キリスト教は冬の時代を迎えました。しかし二〇世紀に入って、再び聖霊の雨が降り始めました。この「後の雨」は、今や穀物を成長させ、実らせ始めています。大収穫は間近です。

しかし、豊かな収穫をもたらすためには、働き（伝道）を怠ってはなりません。正しい方法、すなわち真理の福音を適切に用いることが大切です。私たちはそのことを覚え、祈りつつ、日本のリバイバルのための働きに参加していききたいものです。

《お知らせ》

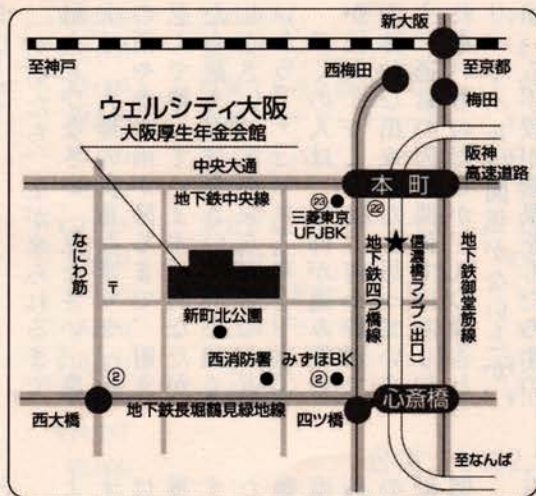
2006年度・後期

理事・ブロック長会議

日時■2007年1月15日（月）
 14時～ 理事会（理事のみ）
 18時～ 食事・懇親会（理事とブロック長）
 19時～ ブロック長会議（理事も出席）
 1月16日（火）
 12時～ 執行部会議
 場所■ウェルシティ大阪（大阪厚生年金会館）
 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目14-15
 TEL 06-6532-6301 <http://kapara.jp/>

オープンセミナー

講師■有賀喜一師
 全日本リバイバルミッション代表、
 リバイバル聖書神学校校長
 主題■「私の日本救済構想」
 日時■2007年1月16日（火） 10時～12時
 会場■ウェルシティ大阪（大阪厚生年金会館）
 会費■1,000円
 ※オープンセミナーはどなたでも参加できます。
 ※お問い合わせは事務局までご連絡下さい。



A C C E S S

- 地下鉄四つ橋線
- 四つ橋駅②号出口より徒歩5分
- 本町駅②③号出口より徒歩7分
- 地下鉄長堀鶴見緑地線
- 心斎橋駅(四つ橋駅②号出口)より徒歩6分
- 西大橋駅②号出口より徒歩5分

ブロック活動レポート1 東北ブロック

東北ブロック長

松山 裕

(土崎グロリアチャペル牧師)



ハレルヤ！主の御名を崇めて心から讚美申し上げます。東北ブロックの働きのためにお祈り下さり心から感謝いたします。

東北ブロックでは、七月十七日に初めて集会を持つことができました。奥山実先生ご夫妻をお迎えして、「日本民族総福音化運動東北大会」を秋田市にある土崎グロリアチャペルを会場に行いました。当日は、予定していた各教会が他集会と重なったりして参加者が少なかつたのですが、それでも福島県、岩手県、秋田県から約八〇名が集まりました。

土崎グロリアチャペルの讚美チームの会衆讚美の時から、聖霊の臨在が満ち溢れていました。奥山篤御夫人の「証し」に一同胸熱くされ、また郡山教会の「恵言紀」の方々の素晴らしき特別讚美のあと、いよいよ奥山実先生が、歴代誌Ⅱ七章十四節から目の覚めるような燃えるメッセージを語ってくださいました。全会衆は笑ったり、泣い

たり、励まされたり、示された。本心に恵みが溢れたのでした。メッセージのあと、約30分間、全員が講壇の前進み出て熱い熱い祈りを捧げました。

①日本の教会に聖霊がさらに注がれるように。

②日本の教会が霊的にリバイバルされるように。

③日本に爆発的なリバイバルが起り、一億二七〇〇万の魂が主に立ち返るように。

心一つにして叫んで祈りました。集会のあとで、何人かの方々が「本心に素晴らしい霊的な感動的な集会でした」と証して下さいました。最後は、土崎グロリアチャペルの婦人会が用意してくれたとてもおいしい夕食パーティーで、主にある麗しいお交わりができました。皆様のお祈りを心から感謝しつつ、ご報告させていただきます。続けて東北ブロックがさらに祝福されるようにお祈り下さい。

ブロック活動レポート2 関西ブロック

関西ブロック長

山中一正

(淀川栄光教会牧師)



近年のクリスチャン人口は微減を続け、〇・四％を切っていると言われています。これは江戸時代のキリシタン人口のパーセンテージの十分一と言われていて、このまま日本のクリスチャン人口は減り続けていくのでしょうか。否、一握りのクリスチャンを主は決してお見捨てになりません。たとえ、一握りとは言え、キリストの血潮で贖われたクリスチャンは今まさに、真剣に日本のリバイバルを求めて立ち上がるうとしているのである。そんな中であって、日本民族総福音化運動協議会が立て上げられ、日本人口の半数以上が救われることを願って動き始めています。

去る九月三十日、大阪の淀川栄光教会で、日本民族総福音化の決起を願って関西ブロックの牧師教職者が十六教会より約三十名が集い特別セミナーが開かれました。講師をつとめていただいたのが、元新宗教の大幹部小澤利夫氏でした。

小澤氏はその中で、氏の属していた新宗教は、年を経る毎に破竹の勢いで信徒数が増加している。しかし、今、この激増した新宗教の内部に、大きな地殻変動が着実に起こっているというのです。

「もし今、日本のキリスト教会に『どうか私たちを助けて下さい』と一万人二万人と押し寄せたら、皆さんどうしますか。」と提言され、「教会側が真摯な受け入れ体制を整えていくことが、急務であり、このことの拠点は東京でも九州でもなく関西である。」と語られました。

日本のリバイバルの発端は意外にこういうところにあるのではと思われず。だとするならば、彼らをしつかり受けとめるために、日本の全教会が一枚岩の体制を創り上げなければなりません。日本民族総福音化運動協議会が将しくこれを実現化する大きなムーブメントとなり、主に用いられていくよう願ってやみません。